

平成 29 年度 前・後期 在宅ケアマインド養成の進捗状況

学年	科目名	強化の実績
一年次前期	看護学原論	看護の対象を「患者」としてみるのではなく「生活者」としてとらえることの重要性と、また、人間が地域・在宅で暮らす意義について教授した。
	看護早期体験実習	「病気をもち地域で暮らす生活者としての対象者について知る」ことを課題のひとつに挙げ、外来の受診者は在宅で療養中の生活者であることを認識できるようにした。
一年次後期	健康生活援助論	対象者が在宅で利用できるケア（環境整備、排泄）について、学生がイメージ・活用できるように説明・指導を実施した。
	成人・老年看護学総論	成人期にある人々が慢性期・終末期・急性期の病を抱え、どう反応するのか生活や仕事も含めイメージできるようにした。老年では認知症に関する施策である新オレンジプランや認知症サポーター養成講座の活動を含めた。
	精神看護学総論	精神障害者の地域生活の実際を映像で紹介し、また利用できる制度やサービスを詳細に説明することにより、在宅での精神障害者の生活がイメージできるようにした。
	母性保健論	母性領域における在宅における自己注射について、目的意義、方法・実技の観点に加え、本年度は患者教育の視点からも講義を展開した。
	母子看護総論	地域・学校保健等に関する内容の充実。地域で生活する疾患を持つ子どもやその家族を支援する外来看護の役割について、具体例を提示し強調。
	小児看護学	小児の「育ち」において、親子の愛着や生活する環境が果たす役割を意識し、2年次以降の学習に繋がるような基盤づくりを図った。
	地域看護学総論	視聴覚教材の活用だけでなく、ダウン症の療育支援を行う当事者や、市の介護予防サポーターをゲスト講師に招き、実際に学べるようにした。
	看護学方法論演習Ⅰ	看護過程においては、生活者としての視点や対象者の強みなどが看護計画に生かされるように指導した。また、バイタルサインの授業では、対象者の状況に応じて測定器具が選択されていることを説明した。
	看護学方法論演習Ⅱ	在宅患者をケアする訪問看護などでは、異常を早期に発見し、適切に対応する必要があり、看護職者は重要な役割を担う。観察する技術（能力）は、繰り返し実施して、習得していくものであることについて説明した。
	生活援助技術実習Ⅰ	対象者が在宅で利用できるケア（清拭、洗髪）について、学生がイメージ・活用できるように説明・指導を実施した。
	生活援助技術実習Ⅱ	感染予防対策や、酸素療法・吸入・吸引も在宅において、しばしば実施されるケアであることを説明した。
基礎看護学実習	今年度は、各実習病棟で「在宅ケアマインド」や「患者でなく生活者の視点」をテーマとしてカンファレンスを開催した。学生の受持ち患者の事例等について具体的に在宅での状況をアセスメントするよい機会になったと考える。	
二年次後期	成人看護学方法論Ⅰ	疾患を有する成人が、自宅でセルフケアを継続することの困難さや社会復帰の難しさ、ならびに心理的状态について、学生がイメージしながら支援方法を検討できるようにした。
	成人看護学方法論Ⅱ	術式による器質・機能障害を理解し、退院後の生活への影響に対するアセスメントの重要性を強調した。具体的には、退院指導・生活指導の中で、障害の程度や状況を対象の生活習慣、家庭の環境と結びつけることの必要性を具体例を通して示した。
	老年看護学方法論	高齢者のエンドオブライフケア（EOLC）について映像を用いて学習を進めた。また、高齢者の多様な生活の場や健康レベルに合わせた看護の必要性について、学生自身や家族の生活を振り返りながら学ぶことができた。
	母性看護学方法論	母性領域に病院から在宅への移行の例として、母性領域における自己注射について教授した。耐糖能異常病態の理解、自己血糖測定の理解ならびにインスリン自己注の理解に関する無記名式自記式アンケート調査を実施し分析した。

	小児看護学方法論	社会的な動向のデータ・研究成果・写真等を活用しながら、小児在宅ケアの事例や身近な県内施設での取り組み等を紹介した。
	在宅看護学総論	基礎看護学実習で受け持った患者について、地域の生活者とみることに、そのためには家族と地域をもみすることを強化し教授した。また在宅看取りについて学生のイメージをよりはかるため、グループワークを取り入れた。
	地域看護学方法論Ⅰ	様々な健康レベルの対象の在宅での生活が具体的にイメージできるよう、教員や様々な機関に所属するゲスト講師が実践経験の中で出会った事例を基にした教材を使用した。
三年次前期	看護管理学	地域に存在する病院として、地域・在宅のニーズを踏まえた看護マネジメントが重要であることを強調し説明した。
	精神看護学方法論	精神障害者の地域生活の実際を映像で紹介し、また利用できる制度やサービスを詳細に説明することにより、在宅での精神障害者の生活がイメージできるようにした。
	在宅看護学方法論	地域包括ケアシステムを意識づけるために、地域診断を取り入れ、地域における在宅療養生活支援の在り方の指導を強化した。多様な在宅療養生活をイメージし、家庭訪問時のマナーを考えられるような形で発表会を行った。
	地域看護学方法論Ⅲ	様々な健康レベルの対象に対し、その人らしい生活をどう支えるか、職種・機関との連携、地域での支援体制づくりも含めて、具体的な活動事例や視聴覚教材を用いて教授した。
	国際看護学	特に途上国では生活環境が病気をひきおこし、生活環境自体を改善しないと健康の向上が望めない点を強調した。
	成人看護学方法論演習Ⅰ	事例に対する看護過程を展開する演習指導において、アセスメント時から退院計画を見据えること、治療に関する情報から退院後の生活を見通せるように専門知識を活用することなどを、コメントや追加講義で強調した。
	成人看護学方法論演習Ⅱ	新規演習（模擬状況に対するアセスメントから、安全・安楽・自立・効率性に留意した援助を制限時間内で行う発見学習）をとおし、問題となる原因の探索や、解決のための方法を考える、学生の生活スキルの向上を図った。
	老年看護学方法論演習	学生が、在宅で生活し外来通院をする高齢者、認知機能の低下した高齢者、施設で生活をする高齢者等をイメージできるように工夫した。看護過程では、高齢者の強みを活かし、その人の人生を踏まえた展開を実施した。
	母性看護学方法論演習	仕事の有無や初経産の違いなど対象理解のためのアセスメント視点を解説する際、背景の違いによる心身・生活状況の違いの例について具体的に例を挙げることで、生活者として対象をとらえる視点を強化した。
	小児看護学方法論演習	子どもが疾患を抱えながらも適切なケアを受け、入院している子どもの今後の生活を考えた看護について教授した。
	地域看護学方法論演習Ⅰ	単に各活動形態別の計画から評価までの展開技術だけでなく、それらの活動を通じて、在宅で支援を必要とする人々のどのようなニーズに応えうる援助技術なのかを考えさせるように工夫した。
	地域看護学方法論演習Ⅱ	実際に地区に出向いて地区把握を行うことにより、地域の自然環境、社会資源、住民同士の関わりの様子を自身で捉え、地域・在宅での生活の場を具体的に理解できるよう工夫した。
三年次後期	成人看護学実習Ⅰ	現行の教授内容を徹底し、対象者の生活や希望を具体的に捉え、看護計画に反映させるための方法を指導した。また、看護サマリーの記載を導入し、学生に退院後も継続される課題や支援について、考える機会を設けた。
	成人看護学実習Ⅱ	手術に伴う器質・機能障害の理解と、術前から退院後の生活を想定して計画立案・実施ができるように教授した。また、看護サマリーの記載を導入し、学生に退院後も継続される課題や支援について、考える機会を設けた。
	精神看護学実習	退院支援会議や退院前訪問指導など、入院中の患者を地域での生活者として捉えていく実習病棟での取り組みに、多くの学生が参加できるようにした。

	老年看護学実習	介護老人保健施設や老人福祉センターの実習は、様々な健康レベルの高齢者と関わる機会を学生に与えた。学生は疾病や障がいだけでなく、高齢者の生活や価値観を尊重した看護実践の重要性を理解することができた。
	母性看護学実習	生活者としての対象理解を促すために、子産み子育てに関する価値観や生活状況等について意識的に情報収集に導く記録の改訂や実習指導者と教授案の共有を強化した。
	小児看護学実習	ケースカンファレンスでは、「受持ち患児の退院を視野に入れた看護」をテーマにして討議を行った。
	在宅看護学実習	例年通り、在宅看護学実習は、在宅療養支援ならびに、病院との連携強化という視点で学び考えられるよう指導した。
四年次前期	看護総合実習	今年度は、群馬一丸 GP 学部教育改革班が作成して下さった「在宅ケアマインド養成に向けた実習指導事例の記述」を元に実習指導が行えたため、とても充実した、地域を見据えた深い実習指導は例年より行えたと考える。
	周産母子論	愛着理論と愛着形成促進への支援と乳幼児虐待を追加した。
	助産診断・技術演習Ⅰ	助産診断過程展開の演習において、生活者として対象を捉えた際に、学生のアセスメントで不足していた視点を具体的に補足し、ひとつのデータを多面的に捉える必要性を教授した。
	助産診断・技術演習Ⅲ	リアルな産婦モデルによる演習を取り入れ、対象者・家族にとって分娩期という非日常の中であっても、可能な限り対象の価値観や暮らしが継続されるための観察やアセスメント、ケアについてディスカッションを行った。
	助産診断・技術演習Ⅳ	産後の生活をよりリアルにイメージできるように退院後の家族のリアルな生活実態および夫婦の関係性の変化についての体験談が記載された教材を活用し、暮らしの中で活用できる社会資源について具体的に説明した。
	助産診断・技術演習Ⅴ	集団健康教育と個別保健指導の教授案および媒体に関する指導時には、対象者のニーズや生活状況に即したのか、活用しやすいか、という視点で在宅ケアマインドに根差した教育・指導の実際を展開できる助言した。
	地域看護学方法論演習Ⅲ	今年度の取り組みとして新たな取り組みとして、地域包括ケアシステムの構築に向けた実際の取り組みについて、実際に活動している保健師を講師に招いて講義を実施した。
四年次後期	慢性病看護論	リレー・フォー・ライフ・ジャパンぐんま、地域がんサロンなどに参加させ、がんサバイバーの生活を対象者から直接聞き取り、サバイバーの QOL を高めるために必要な支援について発表、討議を通して教授した。
	臨床小児発達論	在宅・地域での「視点」を意識した、ディスカッションができるよう事例、テーマ設定を行いグループワークを行った。
	家族看護論	在宅・地域での「視点」を意識した、ディスカッションができるよう事例、テーマ設定を行いグループワークを行った。
	高齢者ケアシステム論	住み慣れた地域で人生を全うするために、終末期にある人の理解を深め、エンドオブライフケアのケアマネジメントについて講義、施設見学、ケアプラン演習、発表会等と多様な学習ができた。
	助産・助産管理実習	生活者としての対象理解を促すために、子産み子育てに関する価値観や生活状況等について意識的に情報収集に導く記録の改訂や実習指導者と教授案の共有を強化した。
	看護学総合実習（地域看護）	家庭訪問・施設訪問によって、学生が住民の生活について得た情報から、生活ニーズを描けるよう指導した。実際に対象者や住民組織を対象に健康教育を行うことで、生活ニーズに即した看護や地域住民と協働について経験させた。